

# 接続語 レベル1

日 前  
月 名

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

人はそれぞれ違っています。(1) **イ** 僕の好きなものはあなたの嫌いなものかもしれません。同様に僕が嫌いなものをあなたは好きかもしれません。だから人と人がわかりあうことはとても難しいことです。(2) **ウ** 人間はどうかしてお互いをわかりあおうと努力します。(3) **オ** 人は一人では生きていけないからです。(4) **ア**、お互いをわかりあうために役立つことの 하나가、それぞれの育ってきた過程や環境、(5) **エ** 「生い立ち」を知ることです。過去のことを語り合うのもなかなか良いものですよ。

ア そして    イ たとえば    ウ それでも    エ いわば    オ なぜなら

- (1) **イ** (例をあげる)    (2) **ウ** (逆の内容)    (3) **オ** (理由の説明)    (4) **ア** (付け加える)  
(5) **エ** (言い換える)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～クから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

「情けは人のためならず」という言葉は「人に対して情けをかけておけば、巡り巡って自分に良い報いが返ってくる」という意味の言葉である。(6) **ケ**、最近「情をかけることは、かえってその人のためにならない」という意味だと思っている者も多い。それも当然のことだ。(7) **コ**、いつの頃からか「自己責任」という言葉がもてはやされ、人に頼らず自分のことは自分で解決する生き方を正しいものとする価値観が世に浸透したからだ。言葉の意味は世の中の変化とともに変わっていくものである。(8) **ク** 「情をかけることは、かえってその人のためにならない」という解釈の方が正しいものとして認定される時代がいつか来るかもしれない。(9) **キ**、私自身の人生を振り返るならば、人に情けをかけられるばかりで、(10) **カ** 返報した記憶がない。生きていくうちに少しは情けを世に巡らさなければと思う今日この頃である。

カ 全く    キ ところで    ク だから    ケ だが    コ というのも





(6) ケ (逆の内容)  
(9) キ (話題の転換<sup>かん</sup>)

(7) コ (理由の説明)  
(10) カ (「ない」を強調)

(8) ク (原因から結果)

# 接続語 レベル2

名前 \_\_\_\_\_ 日 前 \_\_\_\_\_

1 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

地球上の動物は神様から与えられた世界の中で生きていきます。彼らの多くはその世界を自分の手で作り変えることはできません。(1) **ウ**、人間は自分たちが生きている世界を作り変えていくことができます。(2) **オ**海を埋め立てて陸地にしたり、森林を伐採して住宅地にしたりすることも可能です。そのために必要なことは何でしょうか。(3) **ア** 自然の仕組みを学ぶことです。どうして太陽は東から出て西へと沈むのでしょうか。なぜ海には満潮と干潮があるのでしょうか。こういったことを研究するのが科学です。(4) **イ** 自然の仕組みを活用することです。太陽光の持つエネルギーを電気に変えることはできないか。微生物をうまく働かせておいしい食品を作ることができないか。こういったことを追求するのが技術です。(5) **エ** 科学と技術があるからこそ人間らしい暮らしができるのです。

ア まず イ 次に ウ でも エ 要するに オ たとえば

- (1) **ウ** (逆の内容)
- (2) **オ** (例をあげる)
- (3) **ア** (最初にするべきこと)
- (4) **イ** (二番目にするべきこと)
- (5) **エ** (まとめて言う)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次の力～クから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

仮にあなたが恵まれない状況にある人を何かの形で救ったとします。(6) **ク** あなた自身が純粋な気持ちでやったことであっても、それを「偽善だ」と非難する人もいます。残念ですがこれが世の中の現実です。誰かが何か良いことをすると、必ずといっていいくらいに、それを非難する人が出てくるものです。(7) **カ** 「単に目立ちただけだろう」と非難する人もいます。(8) **キ**、良いことをすればするほど、世の中から非難されるなどということが起こってしまいます。逆に何もしな

れば非難されることもありません。(10) **ケ** 何もしないことが素晴らしいことにはなりません。物体が運動しようとするとき、その運動を妨げようと作用する力を「摩擦ま力りき」と言います。動こうとする限り「摩擦ま力りき」を受けるのは物体も人間も同じです。あなたが前に進むようとするときに、あなたを妨げようとする人が現れても「そんなものだ」と上手にやりすごしてください。

カ あるいは キ だから ク たとえ ケ だからといって コ ますます

(6) ク (仮定のこと)

(7) カ (いろいろな場合を並べる)

(8) キ (原因から結果)

(9) コ (程度が激しくなる)

(10) ケ (いったん認めるが賛成しない)

# 接続語 レベル3

日 前  
月 名

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

中国の春秋時代、琴の名手である伯牙の弾く曲を、その友人の鍾子期はよく理解したという。**(1) ア**その後、鍾子期は亡くなってしまふ。伯牙は、もはやこの世に自分の琴の音を真に理解してくれる者がいないことを悲しみ、**(2) ウ**琴の弦を断ち切り、二度と琴を奏することはなかったそうだ。**(3) エ**この逸話がもとになり「互いに心をよく知り合い、許し合った友達、親友」を指す「知音(ちいん)」という言葉が生まれた。伯牙が**(4) イ**どのような音色を奏でていたのか、現代の我々には知るよしもないが、この逸話は芸術というものが持つある特徴を示唆している点で興味深い。それは演者と聴衆が呼応しあうところに名作・名演が生まれるという点である。**(5) オ**、どんなに素晴らしい作品や演奏であったとしても、それを理解し享受するものがいなければ名作・名演は成立しないのである。

- ア だが    イ いったい    ウ それゆえ    エ ちなみに    オ 言い換えれば
- (1) ア (期待と反する内容)**    **(2) ウ (原因から結果)**    **(3) エ (関連する内容を続けて補う)**
- (4) イ (疑問を強調)**    **(5) オ (言い換えて説明)**

■ 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次の力～クから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

ある者が物質Aを熱することで物質Bの生成に成功したとする。そして、別の多くの者たちが同じように物質Aを熱することで物質Bの生成に成功したとする。**(6) ク**同じ実験結果が多くの人によって再現されたとき初めて、それは科学的に正しいということができる。すなわち「他者による再現性」こそが科学の特徴である。**(7) ケ**、ある人がやれば成功するが、別の人がやると成功しない現象を科学と呼ぶことはできない。**(8) コ**、現代においてとても科学と呼ぶことのできないようなものが、**(9) キ**科



学であるかのように扱あつかわれている。  
えている。

(10)

**カ**

血液型えき占ういなどもその一つであると私は考

カ たとえば

キ

まるで

ク

このようにして

ケ だから

コ

けれども

(6)ク (前の内容を前提にして導く)

(7)ケ (原因から結果)

(8)コ (逆の内容)

(9)キ (よく似ている様子)

(10)カ (例をあげる)

# 接続語 レベル4

名前 \_\_\_\_\_ 日 前 \_\_\_\_\_

1 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

最近、若者との会話の中で「意識高い系」という言葉をよく聞くようになりました。最初にこの言葉を耳にした時に私が感じたのは「意識が高いのは良いことだ」ということです。すなわち「成長を目指してさまざまな事柄に深く注意を払うこと」は素晴らしいこと以外の何物でもないと思っていました。(1) **イ** 話を聞くうちに、彼らの言う「意識高い系」というのはそういう文脈ではないことがだんだんとわかってきました。彼らの言う「意識高い系」という言葉は「自分を過剰に演出するのにな中身が伴っていない者」や「前向きすぎて空回りしている者」をばかにして言う言葉だったのです。私は悲しい気持ちになりました。(2) **ウ**、若いうちは誰も成長の過程において、自分を大きく見せようとしたり、前向きになりすぎて失敗したりするものだからです。言い換えれば、恥ずかしい体験は成長への糧なのです。失敗しながら大きくなればいいのです。(3) **エ** 私は若者には「あいつは意識高い系だ」と誰かを指差して笑う側ではなく、(4) **オ** 笑われる側でいてほしいと思っています。(5) **ア** それは若者だけに許された特権です。逆に言えばおじさんおばさんになる頃には、空回りでない行動をする中身のある人になってほしいと願っています。

- ア ただし イ でも ウ というのも エ だから オ むしろ
- (1) **イ** (予想と違う内容) (2) **ウ** (理由の説明) (3) **エ** (原因から結果)
- (4) **オ** (どちらかという) (5) **ア** (付け足し)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～コから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

鎌倉時代の初期に鴨長明によって書かれた随筆『方丈記』は「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」というフレーズで始まります。これは「流れ行く河の流れはとぎれることなく続き、その上、その河の水はもとの水ではない」という意味です。ここで



鴨長明が述べたかったことは(6)カ 河川のことにとどまりません。一見河は同じように見えても、先程流れていた水はもう遠くへ行ってしまう、目の前を流れている水は別の水ですが、(7)ケ、ある人がここにいてもその人は数時間前とはもう別の存在(そんざい)なのです。(8)ク、人間の身体の中では一日一兆個の細胞(ぼうぼう)が入れ替わると言われています。これ一つをとってみても、人間は一瞬(しゅん)たりとも同じ存在であり続けるはずがありません。そしてこれはこの世に存在するあらゆるものに当てはまります。全てのものが日々変化し続けていきます。(9)キ この世には「常(つね)に同じであり続けるものは決して存在しない」ということです。こういった考え方を「無常」と呼びます。『方丈記』は仏教的無常観を基調とした随筆の名作として知られています。(10)コ 機会があれば読んでみてください。

カ 単に    キ 要するに    ク たとえば    ケ 同様に    コ ぜひ

(6)カ (限定)

(7)ケ (他にも同じようなものをあげる)

(8)ク (例をあげる)

(9)キ (まとめて言う)

(10)コ (強く望む)

\* (6)(7)の「単に河川にとどまらず人間も同じ」という論(ろん)の流れに注意しましょう。



■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

「アイデンティティ」という言葉は「他人とはつきり区別される一人の人間の個性」というような意味で用いられます。(1) **エ** 「自分らしさ」「その人らしさ」というようなニュアンスですが、この言葉は「自己同一性」と訳されることもあります。(2) **オ**、ここで言う「同一」とはどういう意味なのでしょう。たとえば、昨日まで正義感が強くて人に優しい性格である彼は、今日も当然同じような個性を持ち続け、明日も同じような性格であり続けることでしょう。日替わりでコロコロと変わってしまうようなものは「その人らしさ」ではないですね。「同一」とはいわば「一貫性」ということです。(3) **イ** この「アイデンティティ」を確立するには他者の存在が不可欠です。(4) **ア** ある人の個性の中に一貫性を見出し、他の人と区別して認めてくれるのは、その人の周囲にいる他者だからです。「自分らしさ」も他人なくしては成立しないということですね。(5) **ウ** 最近は自己中心的な人が増えていることは大変嘆かわしいことです。

- ア なぜなら イ ところで ウ それなのに エ わかりやすく言えば オ それでは
- (1) **エ** (かみくだいて解説) (2) **オ** (前の内容を受けてさらに論を展開)
- (3) **イ** (「他者」という話題へ転換) (4) **ア** (理由の説明) (5) **ウ** (逆の内容)
- \*イとオの違いをよく考えて選びましょう。

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次の力～クから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

米国の文化人類学者であるルース・ベネディクトはその著書『菊と刀』の中で、欧米の文化を「罪の文化」という言葉で説明しました。「欧米人は自分の中にしっかりと確立された良心に基づいて行動を律する」というのです。(6) **コ** ベネディクトは日本の文化を「恥の文化」という言葉で説明しました。(7) **ク** 「日本人は自分の心の中にしっかりとした基準を持たず、他人からの評価を基準として自分の行動を律する」というのです。



(8) **ケ**、日本人であるあなたが、何かをやるうとした時に「人から笑われたら嫌だ」などと思って、その行動をやめてしまうことがあるとしたら、それは(9) **キ**「恥の文化」を体現していると言っているといいでしょう。(10) **カ**『菊と刀』が刊行されたのは一九四六年のことであることも忘れてはなりません。ベネディクトが述べたことが現代の日本人にそのまま当てはまるかどうかは検証の必要がありそうです。

カ ただし キ まさに ク すなわち ケ たとえば コ 一方で

(6) コ (対立的な事柄を並べて対比)

(7) ク (言い換えて説明)

(8) ケ (例をあげる)

(9) キ (確かに当てはまることを強調)

(10) カ (付け足し)

# 接続語 レベル6

名前 \_\_\_\_\_ 日前 \_\_\_\_\_

1 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

昔話の中で、花咲か爺さんは枯れ木に花を咲かせます。(1) **イ** 「枯れ木に花が咲く」ということは驚くべきことです。(2) **ア** 見逃してはいけないことがあります。それは生きている普通の桜の木に桜の花が咲くこともまた驚くべきことではないかということなのです。江戸時代の思想家・自然哲学者である三浦梅園はこんなふうに書いています。「うたがひあやしむべきは、変にあらざして、常の事なり。」これは「疑い怪しむべきものは、世の中の変異ではなく、通常のものである。」という意味です。(3) **オ** 梅園はこうも述べています。「枯れ木に花咲きたりといふとも、先(ま)ず、生木に花さく故をたづぬべし。」こちらは「たとえ枯れ木に花が咲いたとしても、まず生木に花が咲く理由を尋ねるべきだ。」という意味です。考えてみたら、我々は自分自身が(4) **エ** この世に生を受けて生きているのかもわかりません。どうして地球は存在するのでしょうか。どうして人は死ぬのでしょうか。何も知りません。(5) **ウ** 今自分がここに生きていることが奇跡であり驚くべきことです。それと同じように一輪の花が桜の木に咲くこともまた奇跡であり驚くべきことです。我々が日々当たり前だと思っていることの奥にすでに奇跡が隠れているのです。

- ア しかし イ もちろん ウ だとしたら エ なぜ オ さらに
- (1) **イ** (よくある見解を認める) (2) **ア** (よくある見解と違うことを述べる)
- (3) **オ** (論を重ねる) (4) **エ** (理由を考える) (5) **ウ** (前に述べたことを受けて判断する)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～コから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

彼は話が上手である。(6) **カ**、外見にも気を遣っており、人に良い印象を与えることが極めて多い。(7) **コ**、彼は実のところ思いやりの心に欠けた人間である。(8) **ケ** 結局は人の期待を裏切り、信用を失ってしまふ。古代中国の思想家であった孔子は「巧言(こうげん) 令色、鮮(すくな) し仁(じん)」と言ったが、これは(9) **キ**



彼のような者のことを言うのである。なお、ここで言う「巧言（こうげん）」は巧みな言葉を用いること。また「令色」の「令」は「うつくしい」「善い」という意味、「色」は顔色である。「鮮」は「少ない」という意味を持つ「黓」という字と音で通じるため「すくなし」と読む。「仁」は「思いやり」「いつくしみ」の心である。

(10) **ク** 「仁」という漢字は「イ（にんべん）」に「ニ」から成り立ち、「二人」を表現する。自分一人ではなく相手がいる時には、互いに親しみ合い、相手を思いやる気持ちが大切なのである。

カ しかも    キ まさに    ク ちなみに    ケ だから    コ しかしながら

(6) カ (強調したい内容を加える)    (7) コ (期待に反した内容)

(8) ケ (原因から結果)    (9) キ (確かに当てはまることを強調)

(10) ク (関連する内容を続けて補う)

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

「先生、部活を取るべきか、勉強を取るべきか教えてください」というような相談を、僕は生徒さんから受けることがあります。

(1) **イ**、皆さんが悩む気持ちはよくわかり

ます。部活でがんばって練習をした後に、試験に向けて勉強をすることが辛い気持ちになることもあるでしょう。先生に救いを求めたくなる気持ちも理解できます。でも、ちょっと待ってください。「部活を続けること」と「勉強」は本当に「二者択一」で考えなければならぬことなのでしょう。二つの事柄の、どちらか一方を選ぶことを「二者択一」と言います。たとえば「日本で一番高い山は富士山である。イエスか、ノーか」というような問題は二者択一で考えることができるでしょう。

(2) **エ** この種の問題はあらかじめ

答えが定められている問題だからです。

(3) **ウ** 絶対に正しい答えが出せる問題なの

です。

(4) **オ**、世の中を見渡してよく考えてみると、答えが定められている問題は案

外多くないのです。「部活を取るか、勉強を取るか」という問題も、その人の置かれた状況や性格などによって変わってきます。先生であるからといって正しい答えが出せるとは限りません。さらに重要なことは、そもそもこの問い方自体が間違っているかもしれないということです。ここで考えるべきことは「どうやったら部活と勉強を両立できるのか」であるかもしれないのです。

(5) **ア** もしあなたが「二者択一」の問題で悩んでいるこ

とがあるなら、「これは二者択一で考えなくてもいい問題なんじゃないか」と疑ってみてください。そこから新しい道が開けることもあるかもしれません。

ア だから イ なるほど ウ 言い換えれば エ なぜならば オ ところが

(1) **イ** (意見をいったん認める)

(2) **エ** (理由の説明)

(3) **ウ** (言い換えて説明)

(4) **オ** (逆の内容)

(5) **ア** (原因から結果)



2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～クから選び、記号で書き入れ  
 ましよう。(同じ記号は一度しか使えません)

「一期一会(いちごいちえ)」という言葉は、(6) **キ** 茶道の心を説いた用語の一つで  
 した。「茶会は毎回、一生に一度だという思いをこめて、主人も客も誠心誠意、真剣に行  
 うべきだ」という意味です。そこから(7) **ク** 「一生に一度しかない出会い」「一生に  
 一度かぎりであること」を指すようになりました。(8) **カ** ここで現代社会に目を向  
 けてみましょう。宮崎駿監督の映画『天空の城ラピュタ』のテレビ放映時に、タイミング  
 を合わせてセリフをツイッター上に投稿する「バルス祭り」と呼ばれる現象がありますが、  
 ある限定された貴重な時間に多くの人々が参加するという構造は、(9) **コ** 「一期一会」  
 です。スマートフォンやSNSの普及によって、かつては考えられなかったような形での  
 出会いや参加が可能な時代となりました。(10) **ケ** 「一期一会」は手のひらの中の機械  
 を使って行われているのです。

カ きて キ もともと ク 転じて ケ 今や コ まさに

(6) **キ** (はじめにあった意味)

(7) **ク** (意味が変わって)

(8) **カ** (話題を転換)

(9) **コ** (確かに当てはまることを強調)

(10) **ケ** (「かつて」に対して「今」のこと)

## 接続語 レベル8

日	前
月	名

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

「彼は石のようなやつだ」という表現があります。

(1) **オ**

この「彼」はいったいど

のような人でしょうか。「彼はとても頑固な人間だ」と解釈する人がいたとして、それには納得がいきません。

(2)

**ア**

「彼はとても柔軟な人間だ」という解釈は成り立たない気が

します。なぜでしょうか。この「くのようなだ」というのは比喩の表現ですね。実は比喩には「たとえるもの」と「たとえられるもの」の間に共通性が必要です。この例文において「たとえるものである石」と「たとえられるものである彼」の共通性は何でしょうか。

それは「固い」という性質です。彼は頭が固いのでしょうか。その性質は石の持つ固さと共通します。だからここに比喩が成立というわけです。ところが石から柔らかいという性質を読みとることは困難です。

(3)

**ウ**

「彼は石のようなやつだ」という表現は「彼はと

ても柔軟な人間だ」という解釈に結びつかないのです。ところで、この共通性ということ は比喩に限らず重要なものです。たとえば、あなたがある困難な事態に直面したとします。あなたはどうか頭を悩ませますが、ふと気づきます。「ああ、これはかつてのあの経験と共通するものがあるぞ。ならばあの時と同じような方法で解決できるはずだ」と。

(4)

**エ**

あなたがそれによつて困難な事態を切り抜けることができたとしたら、

それは共通性の発見が大いに役に立ったということになります。

(5)

**イ**

、ノーベル賞

を受賞したことと知られる湯川秀樹は「創造の基本はだれも気がつかなかった類似性の発見だ」との旨を述べています。共通性は創造においても重要なようです。

ア でも    イ ちなみに    ウ だから    エ そして    オ では

(1) オ (前の内容を受けて論を展開)

(2) ア (逆の内容)

(3) ウ (原因から結果)

(4) エ (付け加える)

(5) イ (関連する内容を続けて補う)



2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～コから選び、記号で書き入れ  
 ましよう。(同じ記号は一度しか使えません)

伝統的な和歌の技法の一つに「見立て」があります。

(6)

ケ

「ちはやぶる神代もき

かず竜田川からくれないに水くくるとは」という在原業平の有名な歌に「見立て」の技

法が用いられています。この歌の意味を簡単に言うと「紅葉がたくさん流れている竜田

川は(7) **ク** 紅い模様を染めた布のように見える」ということになります。すなわち「紅

葉の流れる川」を「布」にたとえたわけです。このように自然物を人工物にたとえるのが「見

立て」の一つのやり方です。

(8)

コ

「駒なめていざ見にゆかむふるさとは雪とのみこ

そ花はちるらめ」という歌にも「見立て」の技法が用いられています。この歌の意味を簡

単に言うと「馬を並べて見にいこう、古い都では雪のように花が散っているだろう」とい

う意味です。こちらは花を雪にたとえたわけです。このようにある自然物を別の自然物に

たとえるのが「見立て」のもう一つのやり方です。

(9)

カ

「見立て」は、ある自然物

を別の自然物もしくは人工物にたとえる技法なのです。

(10)

キ

それによって目の前の

風景の向こうに別世界が展開されるというある意味で幻想的な技法でもあるのです。

カ 要するに    キ しかも    ク あたかも    ケ たとえば    コ また

(6) ケ (例をあげる)

(7) ク (よく似ているものにたとえる)

(8) コ (事柄を列挙する)

(9) カ (まとめて言う)

(10) キ (強調したい内容を加える)



# 接続語 レベル9

日 前  
月 名

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

人類のさまざまな活動が地球規模で行われる時代になりました。(1) **ア** グローバル時代の到来ということではグローバルとはどういう意味でしょうか。「global(グローバル)」はもともと「globe(グローブ)」という「球体」「地球」を意味する名詞から派生してきた形容詞で「国境を越えて地球全体にかかわるさま」や「世界的規模の」という意味で用いられます。ところで、最近「グローバルな視点で考えることが重要だ」などとよく言われますが、これは人間にとってなかなか難しいことです。

(2) **ウ**、私たちは人間は地に足をつけて生きる動物だからです。鳥のように空から地上を眺めることはできませんし、(3) **イ** 神のように全知全能の存在でもありません。とても地球全体について考えることができるとは思えません。(4) **オ** 悲観することはありません。人間には「想像力」という能力があります。「想像力」を用いることによって人間は見たこともない世界や、行ったこともない世界のことを思い描くことができるのです。その「想像力」を育てるのに役立つのが「知識」です。いわば「知識」は「想像力の燃料のようなものです。大いに勉強して「知識」を身につけて想像力豊かな人間になりましょう。(5) **エ** グローバル時代も恐れることはありません。

- ア 手短に言えば    イ ましてや    ウ なぜかと言えば    エ そうなれば    オ でも
- (1) **ア** (簡潔に言う)    (2) **ウ** (理由の説明)    (3) **イ** (先に上げた例よりもさらに程度がはげしい様子を表す)    (4) **オ** (逆の内容)    (5) **エ** (これまで述べられたことができる)、次に期待されること)

■ 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次の力～ケから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

『生物から見た世界』という本があります。これはユクスキュル(「一八六四～一九四四」ドイツの理論生物学者)という人によって書かれた本です。この本が(6) **ケ** 面白くて、同じ街路の風景でも人間の目で見ると、ハエから見るとではこんなにも違っ

(7) **力**

同じ街路の風景でも人間の目で見ると、ハエから見るとではこんなにも違っ



て見えるのだということが画像入りで紹介しょうかいされています。どうしてそんなに風景が違って見えるのかといえは、そもそも人間とハエとでは目の構造こうぞう自体が違うからです。皆さんも知っているようにハエの目は複眼ふくがんになっています。

(8) **ク** 僕ぼくたち人間のような目で見るのと複眼で見るとでは見える風景が違っていて当然です。この『生物から見た世界』

という本ではハエだけでなく、ダニやミツバチ、貝など様々な生物が自分をとりまく世界をどのようにとらえているかが図や写真などを使って説明されています。

(9) **コ**、この本は当時の思想・哲学の世界にも大きな影響えいぎょうを与あたえたと言われています。簡単かんにいえば

「たった一つの正しい世界」という考えを無効むこうにしてしまったのです。たとえば、そこにひとつの森があったとして、人間は人間なりのとらえ方で、ハエはハエ、ダニはダニなりのとらえ方で森を見ます。どの森のとらえ方が正しいとは言いません。(10) **キ** どの生物の森のとらえ方も正しいということになります。「真実はたった一つである」と考えるのと「真実は複数ある」と考えるのでは、物を考えるときの前提から大きく違ってしまうですね。

カ たとえば キ 言ってみれば ク だから ケ なかなか コ ところで

(6) **ケ** (予想以上に、かなり)

(7) **カ** (例をあげる)

(8) **ク** (原因から結果)

(9) **コ** (話題を思想や哲学へと転換かん)

(10) **キ** (言い換えて説明)

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

皆さんは「バックキャスト」という言葉をご存じだろうか。「バックキャスト」とは、目標となる未来を定めた上で、現在何をするべきかを考える発想法である。たとえば環境問題に適応するならば、「二〇五〇年までに温室効果ガスを〇%削減するためには、今から毎年〇%ずつ削減する必要がある」と定めて、それを実現すべく行動していくというようなことである。この「バックキャスト」の発想を人生に適用せよと主張する人もいるようだ。たとえば「二〇五〇年までに一流企業の社長になる。そのために今から日々ビジネスの勉強をしていこう」というように。

(1) **エ** 人生において目標を定めることは大切だ。  
 (2) **ウ** 「バックキャスト」の発想は、時に人生の可能性を狭めてしまうのではないか。仮にここに十五歳の若者がいるとする。この若者が「バックキャスト」の発想に

立つなら、彼は自分が三十歳になった時の目標を、今現在知っている知識や経験の中で定め、それを実現すべくこの先の人生を過ごすことになるだろう。だが、十五歳の時に立てた目標は、所詮十五歳の発想によるものに過ぎない。この少年が成長して二十歳になった時に世界の情勢は大きく変わっているであろう。

(3) **イ** 彼自身も知識や経験を積んで興味の対象も広がっているかもしれない。  
 (4) **ア**、二十歳の彼にとって、かつての目標がもはや無意味なものや幼稚なものとして化していることも充分にあり得る。その時彼に必要なことは過去の目標に固執しながら三十歳まで過ごすことではなく、柔軟に目標を修正

してより充実した二十代を生きていくことである。人生はたった一つの目標を達成するためにあるのではない。目標よりも大事なはその人の人生そのものである。  
 (5) **オ** 私  
 が言いたいのは人生が本末転倒になつてはならないということだ。

ア そうである以上 イ また ウ だが エ 確かに オ 要するに

- (1) エ (意見をいったん認める) (2) ウ (その前に述べられた意見と違うことを述べる)  
 (3) イ (並べて述べる) (4) ア (これまでの内容を受けて結果として言えることを述べる)  
 (5) オ (まとめて言う)



2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～コから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

人生には誰かと勝負をして勝たなければならない瞬間があります。とはいっても、大人になると誰かと取っ組み合いのケンカをするようなことは(6)カありません。たとえば大人の世界での勝負というと、ビジネスでの商談などがその例として考えられます。ここでは相手と交渉してうまく取り引きを成立させることなどが「勝つ」ことに該当するでしょう。(7)ク そういった場面での「勝つ」の意味するところは何でしょうか。一般的には「勝つ」とは「相手より優れること」を意味しているように思われます。(8)キ 大人の世界での「勝つ」は「自分の優れた部分を見せること」ではなく、「相手を自分に従わせて自分の意志の通りに物事を進めること」を意味する場合があります。(9)コ、大人の世界では「自分の意志の通りに物事を進めた人」が「勝者」ということになります。(10)ケ 大人の世界では、一見下手に出て弱そうに見えている人が、実は最強の人物であるということも起こり得るわけです。

カ まず キ でも ク では ケ だから コ 言い換えれば

(6)カ (否定を強調)

(7)ク (前の内容を受けて論を展開)

(8)キ (逆の内容)

(9)コ (言い換えて説明)

(10)ケ (原因から結果)

\*ケとコの違いをよく考えて選びましょう。